

第 26 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成22年9月21日（火）10:00～11:10

2. 場所 （社）日本電気協会 4階C,D会議室

3. 出席者(敬称略,順不同)

出席委員：森下議長（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），宮野（日本原子力学会 標準委員会 委員長），関村（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），新田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長），越塚（日本電気協会 原子力規格委員会 幹事），小山（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：大島（原子力安全・保安院），佐々木（内閣府・角田代理），釘宮（原子力安全基盤機構），渡辺（電事連・高橋代理），伊藤（日本原子力技術協会），瀧口（日本建築学会）

オブザーバ：小山田（内閣府・原安委），河井（日本原子力技術協会），船橋（火力原子力発電技術協会），横田（日本原子力産業協会），渡邊（日本電機工業会）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本原子力学会 事務局 標準委員会担当 岡村，谷井

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 森，牧野，高須，国則，大滝，田村，井上 （29名）

4. 配付資料

資料 No.26-1 第 25 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）

資料 No.26-2 規格基準評価委員会に関して

資料 No.26-3-1 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要

資料 No.26-3-2 規格基準に関する NISA，JNES との連絡会の設置について（提案）

資料 No.26-4 原子力先進国の設計基準等に関する調査 報告書

参考資料-1 原子力関連学協会規格類協議会 名簿

参考資料-2 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱

参考資料-3 日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格

参考資料-4 日本原子力学会標準一覧表

参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格

5.報告事項

(1)常時参加者，オブザーバ変更及び代理出席者の紹介

事務局より，参考資料-1に基づき，常時参加者及びオブザーバの紹介があり，承認された。

(3) 前回議事録確認

事務局より、資料 No.26-1 に基づき、前回議事録(案)(事前に配付しコメントを反映済み)について紹介があり、原案通り承認された。

(4) 報告事項

1) 規格基準評価委員会に関して

釘宮氏 (JNES) より、資料 No.26-2 に基づき、JNES に設置された規格基準評価委員会の報告があった。主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・ JNES に規格基準評価委員会を立ち上げて頂き、まずはスタートが切れたということによかったと思っている。一方、実施体制に示されたこの制度全体について学協会側から考えると、エンドースを考えた規格作りをしていくことは、検討会、分科会等本委員会以外のレベルで既に継続的に行っている。そこに JNES、保安院からその役割を認識して出席し、発言して頂くことによって、制度全体、仕組み全体が動き始めるということになる。本説明は委員会がスタートしたと言う話であり、いつになったら仕組み全体が動いていると考えてよいのか。例えば 9 月になっても JNES の方が代理出席した会議で、代理だから知りませんという発言をされることがあり、由々しき事態だと思っている。このような調整をうまくやって頂くことをお願いしたい。個々の委員会、分科会、検討会レベルに出席の方々の認識をどの時点でどのように高めていくのかについて明確にして頂きたい。規格基準整備 WG を設けて、今言われたような事例を防いでいく様にしたいと考えている。マニュアルについて講習会で教育をしながら、WG で実務を進めたいと思っている。不手際があれば情報を頂き、それを踏まえて PDCA を回していきたいと思っている。
- ・ まさにそういう事例があったので、どう対処して頂けるかということを知りたい。対応について、この協議会でやっていくべき話でもある。9 月も既に 3 週間も経っており、その間、各委員会でも言っている話。意見を下さいではなく、既に意見を出しているという積りのため宜しく願いたい。この協議会の位置付けも含めてさらに検討を加えていただきたい。
仕組みをきちんと回すためには、規格策定の場に出ていただいて、議論してもらう必要があるが、それがいまだ行われていないということだと思う。全てをカバーしようとするは大変なので、どういうレベルでどう取り組めば全体がカバーできるのかも含めて是非検討をお願いしたい。
- ・ 出席者は十分認識した上で参加して下さいということ。JNES と議論をする時に、屋上屋を重ねるような、技術的議論をもう一度最初からやるようなことだけは是非避けていただきたい。エンドースするにあたって、上位の技術基準等に適合しているかどうかという判断をして頂きたい。
- ・ 恐らく、今後も試行錯誤はあるかと思うが、規格策定側もこの様な体制に対応させつつ、要望・改善等あればこのような場で話をさせて頂きたい。

2) 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会からの報告

事務局より、資料 No.26-3-1、3-2 に基づき、原子力関連学協会規格類協議会幹事会からの報告並びに NISA/JNES との連絡会設置の提案があった。主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・ そもそもエンドース対象あるいは対象にならない規格はどうやって線引きするのか。連絡会が駆け引きの場になるのは避けた方がよい。

エンドース対象の規格については、学協会ではある程度見込んで作られるものもあるし、規制側からするとこの規格が仕様規格として定められている方が審査等合理的に進むという判断もある。だからこそ早い段階から技術評価、エンドースを互いに求めるものを念頭に置いて策定して行くことが必要で、規制側も整備計画・年度計画を定めて計画的にエンドースし、学協会規格のエンドースが遅いという批判に対して対応するということを考えている。今回、学協会から連絡会ということで提案を受けたので、保安院・JNES にしてもこの場で意見交換をさせて頂きながら、よりよい形になるように出来ればと思っている。

- ・以前、リスク論で何を規制対象にするべきかという話があり、原子力についてもある程度、整理しようと言う話があったので確認させて頂いた。

規制側がエンドースを考えているものについて共通の場で議論をしようということと、学協会側が計画しているものを提示し、その俎上に載ったものについて議論するものであり、線引きをどうするというものではない。

- ・提案の中に「公式」という言葉が2度出てくるが、何が公式であって何が公式でないのか判らない。「公式」というのは何を公にと考えているのか。

ある程度きちんとした場という意味で使ったが、別の意味合いを持つようなら削除してもよい。連絡会を設けて意見交換をしていることを公にしているという意味では、重要なキーワードだと思う。例えば規制側としては、基盤小委に対して、連絡会という意見交換の場を設けているということを見える形にするという意味では、公式というのは非常に重く、正しい言葉だと思っている。

- ・学協会の中での仕組みもこれに合わせて、どう位置付けていくのかについて議論を深めておく必要がある。NISA/JNES の立場は良く判ったが、特に事業者がここにどう係り、何を言う立場なのかということ、原技協はどのような立場・役割でここに参加するのかということも含めて、ルールメイキング、合意が必要。

この提案の一つのポイントは、3学協会協議会とは別に連絡会を設けるという事であり、この協議会は3学協会が規格策定に当たった課題を話し合う場であって、今回提案されている連絡会について3学協会としてどのように対応していくかという所がここで議論されることになると思っている。その点についてご意見を伺いたい。

元々、規格類協議会は、規格策定について意見交換をすることだったが、今回提案の連絡会では、そこにNISA/JNESが入って、情報の共有をすることになる。そこでは調整も考えたのだが、難しい所もあり、意見交換とした。連絡会の主旨は、エンドースを中心に3学協会に共通する意見交換であり、調整出来るものがあれば調整する。運営要綱に調整ということを書くのはおかしいという意見があって、意見交換としているが、出来れば議事録にあるようにコンセンサスを作っていきたい。エンドースの対象が他の学会も関係すれば、この連絡会に入ってくるべきではないかと思っている。基本的には規格策定団体側とその評価側の連絡会ということなので、事業者が入るのはオブザーバとしてだが、原技協は、国との間で中々そういう場がないので、話ができる場に参加したいと言う強い要望があったために入ってもらった。

- ・そもそも規格類協議会は、新たに作成する分野の規格策定の分担、優先順位等を調整する場で、そこで共通的に規制側と議論すべき点があれば、確認するという目的であった。今回、NISA/JNES から民間規格をエンドースするに当たって効率的に進める場を設けると言うことで、エンドース計

画について民間規程策定側との連絡調整をする場として、民間側もメリットがあることから、連絡会の設置に至ったという理解である。

- ・原技協の考え方を言うと、基本的に学協会の仕組みの中で支援していきたい。原技協では産業界の意見を纏めているので、連絡会ができればそれを示していくことによって何らかの参考にして頂ければと思っている。そのため、連絡会にオブザーバとして出席したいとお願いしたものである。これからどのようにやっていくかについては、その時のニーズに合わせて、ご意見を伺いながら、考えていきたいと思っている。
- ・連絡会を設置することの提案は認めてもらったと理解。ただし、運営要領等の詳細については別途つめることとしたい。

3)各学協会からの報告

a)MDEP21 年度成果報告について(日本機械学会)

宮口委員(日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長)より、資料 No.26-4 に基づいて、MDEP 21 年度の成果報告があった。

6.その他

- ・次回の協議会開催日時は、平成 22 年 12 月 14 日(火) 10:00 からとした。

以上